

協働推進モデル事業計画書

提案団体名	団体名	特定非営利活動法人岡山県精神障害者家族会連合会 (担当者 綾部 小百合)			
	合同提案団体 (*協議体・実行委員会等で提案される場合は構成団体をすべて記載してください。)				
協働する岡山市の担当課等と担当者	課名	岡山市こころの健康センター		電話	086-803-1273
	担当2名	職名	支援係係長	職名	
		氏名	土器 悦子	氏名	
提案事業の名称	精神障がい者家族ピアサポーター事業				
提案事業の目的	精神に障がいを持つ当事者を抱え混乱している家族が、家族ピアサポーターとの語らいの中で、そのつらさを分かち合い、孤立防止を図り、家族の力を高めていく。また、病状的には退院出来るにも関わらず、家族の理解が得られないために精神科病院に長期入院を余儀なくされている人の地域移行や、再入院を防ぐための地域定着の一助となるべく精神障がい者家族ピアサポーター活動を行う。				
解決をはかりたい課題の緊急性・重要性等 (市民ニーズ含む) ※ニーズ把握等で行った調査資料等がある場合は添付してください。	<p>1. 解決をはかりたい課題と現状</p> <p>精神に障がいを持つ当事者を抱える家族は、周囲や自身の差別偏見による社会的孤立に晒され、罪悪感や無力感を持つ人が多い。これらマイナスの感情を抱いたままで当事者に接することは、適切なサポートを遠ざけるだけでなく、家庭内DVや病気の再発の要因となっている。医療・福祉等の専門家の支援も重要であるが、内面に抱く罪悪感や恥ずかしさは簡単に話せる状況にない。</p> <p>① 精神疾患は、思春期～青年期に好発するが、本人・保護者・教育機関関係者のいずれも正しい知識を得る機会が少なく、間違った知識による差別意識の形成のほか、病気の早期発見・治療を妨げている。</p> <p>② 精神障がいに対する差別や、障がい当事者への対応に家族は孤立・疲弊しており、家族自身が支援を必要とされる状況にあるが、身近に安心して相談できる相手がいない。</p> <p>③ 多くの家族が、精神疾患に関する十分な情報を得るまでに、発症後3年を要しており、治療や対応の遅れが、当事者のその後の社会参加に影響を与えている。</p> <p>④ 家族の状況(高齢化による経済的・身体的な不安、世代交代)が、入院中の精神障がい者の地域移行や退院後の地域定着(※)の障がいとなっている</p> <p>※ 精神障がい者地域移行・地域定着について 入院患者の地域生活への移行に向けた退院の支援(地域移行支援)と、安心して地域生活を継続するための支援(地域定着支援)を行うこと。</p> <p>以下の表は、岡山県内の精神障害者の入院の現状。病状が落ち着いているにもかかわらず、退院できないケースも多く、人権問題として近年、大きな問題とされている。</p>				

岡山県内の精神障害者数	約 79,000 人	
岡山県内の精神科病院入院者数	4,691 人 (平成 24 年資料)	
在院期間	1 年未満	1,914 人
	1 年～5 年未満	1,372 人
	5 年～10 年未満	570 人
	10 年～20 年未満	443 人
	20 年以上	392 人

2. 市民ニーズ

精神障がい者の家族の声

「子供が病気になったことを、だれにも相談できなかった」

「本当に毎日苦しくて、泣きたいような気持ちで暮らしている」

「もっと気軽に相談できる場所があれば、もっと早く治療ができて、大変なことになるはずなのに」

「大きな孤独と不安のなかで、経済的な面も含めて負担が大きい」

「親の体力はもう限界」

「怖いけど、親が見放すと子供が心配なので逃げ出せない」

「自宅に引きこもって、病院にも行きたがらない。子供の将来が不安である。」

「自宅で家族に暴力をふるっても、助けてほしいとは言えない。警察を呼ぶのはかわいそう。近所に知られるのが恥ずかしい気持ちもある」

これらは、それぞれの「家族」の問題ではなく、地域全体で考え、解決を図る必要がある。家庭内で問題を抱え込むことで、社会的な事件に発展するなど不幸な結果を招くこともある。(※) 精神障がい者の暴力について・・・精神障害者の家族会調査によると、精神障がい者からの暴力は一般市民に向くことは少なく、その多くが身近な家族に向いている。当事者もつらく苦しい気持ちをぶつける先が家族しかないため、病状からの混乱で暴力に至ってしまうことが多い。

3. 課題解決の方策

- ① 中学校の先生を対象とした精神障がいについての啓発活事業への家族ピアサポーター（体験発表）派遣。差別や発症当時の状況を伝えることにより、病気の早期発見・治療を促すとともに、偏見差別の解消を図る。
- ② 疲弊した家族の相談を、同じ体験をしてきた家族ピアサポーターが傾聴し、相談を聴くことにより、家族の孤立感を軽減。当事者との接し方についての学習の機会の提供。家族内で当事者を丸抱えする必要はないことを伝え、社会資源の活用を促す。
- ③ 家族ピアサポーターでは対応できない問題については（実際の社会資源の利用など）、関係機関へ繋ぐなどし、具体的な問題解決への道筋をつけるほか、必要な情報が得られる機関の紹介などを行う。
- ④ 行政および関係機関の地域移行・地域定着支援に対して、精神科病院に入院している長期入院者の地域移行等が円滑に進むよう家族側の不安軽減をはかる。

協働の必要性
及び効果と目標

(協働の役割分担を含む)

1. 協働の必要性と相乗効果

家族会が行う広報では周知される先が限定的であり、切実に話し相手や相談相手を探している家族に情報が行き渡っていない。行政から、これらの人々への情報提供が行われれば、より広い層および当事者を丸抱えして行き詰まっている家族への支援に繋がる。

家族ピアサポーターが障がい当事者の家族への共感性の高い支援を行うことにより、行政が行う当事者支援を側面的に支えることができる。

2. 提案団体が果たす役割

- ① 家族ピアサポーターを社会資源のひとつとして機能させるため、家族ピアサポーターの育成と、その後のスキルアップ研修を行う。
- ③ 法人が運営する地域移行促進センターの専門職による家族ピアサポーターのバックアップ。
- ④ 困難事例が起こった時の助言。

3. 岡山市の担当課等が果たす役割

- ① 精神障がい者家族会のみならず、広く市民に本事業についての周知を図る。
- ② 保健所等は、本事業の対象となる家族に対して、本事業について個別に情報提供を行う。
- ③ 困難事例発生時の相談。

4. 期待する事業成果・目標値等

- ① 差別偏見の解消
- ② 精神障がい者家族自身が安定した生活を送ることが出来る。
- ③ 精神障がい者家族自身が実生活上の問題（経済的・家族の身体的負担）が軽減される。
- ④ 入院中の当事者を持つ家族に、病院外でも（地域でも）障がい者が暮らせる環境であることを知ってもらうことで、長期入院患者の地域移行への理解を得る。
- ⑤ 家族が協力者になることで、当事者の地域生活がより安定する。

	初年度	3年後	6年後
電話相談 (毎週水曜日×4週×12か月)	100回 (1日平均2人)	140回 (1日平均3人)	190回 (1日平均4人)
来所相談 (毎月第2日曜日×12か月)	60人 (平均5人)	80人 (平均7人)	100人 (平均8人)
訪問相談 (随時)	12回	24回	36回
チラシ配布数	500枚	700枚	1000枚
協力病院 (精神科病院・診療所)	1か所	3か所	6か所
家族ピアサポーター数	6人	12人	30人

事業の内容

- ① 啓発活動のための家族ピアサポーター派遣（体験発表）
- ② 家族ピアサポーターによる相談支援

	<p>家族ほっとライン（家族相談電話） 家族ほっとサロン（気軽に集える場の提供） 家族訪問相談（家庭等への訪問による相談）</p> <p>③ 相談支援事業所等との連携 ④ ピアサポータースキルアップ研修によるピアサポーター養成事業</p>														
<p>事業の実施体制</p>	<p>1. 総括責任者： 特定非営利活動法人岡山県精神障害者家族会連合会 理事長 鶴川 克己（理事長）</p> <p>2. 個別事業責任者： 綾部 小百合（常務理事・事務局長） 原 晴美（理事・岡山市家族会連絡会会長・家族ピアサポーター代表）</p> <p>3. 事業実施にあたっての専門性やノウハウ 当会は、家族会内での相談と寄り添いの活動を半世紀に渡り行っている。家族会に属さない方への相談事業として、平成19年に家族ほっとライン（家族電話相談）を開始。平成21年からは体系的に学習が行える「家族による家族学習会」を行い、家族ピアサポーター養成の足掛かりとする。</p>														
<p>事業スケジュール</p>	<table border="1" data-bbox="435 853 1382 1171"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>実施事業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月～2月（毎週水曜日）</td> <td>家族ほっとライン（電話相談）</td> </tr> <tr> <td>5月～2月（月1回）</td> <td>家族ほっとサロン（来所相談）</td> </tr> <tr> <td>5月～2月（随時）</td> <td>家族相談活動（訪問）</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>家族ピアサポータースキルアップ研修（基礎編）</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>家族ピアサポーターのスキルアップ研修（応用編）</td> </tr> <tr> <td>年2回程度</td> <td>教育機関研修会に対して家族ピアが講師として参加</td> </tr> </tbody> </table>	時期	実施事業内容	5月～2月（毎週水曜日）	家族ほっとライン（電話相談）	5月～2月（月1回）	家族ほっとサロン（来所相談）	5月～2月（随時）	家族相談活動（訪問）	6月	家族ピアサポータースキルアップ研修（基礎編）	12月	家族ピアサポーターのスキルアップ研修（応用編）	年2回程度	教育機関研修会に対して家族ピアが講師として参加
時期	実施事業内容														
5月～2月（毎週水曜日）	家族ほっとライン（電話相談）														
5月～2月（月1回）	家族ほっとサロン（来所相談）														
5月～2月（随時）	家族相談活動（訪問）														
6月	家族ピアサポータースキルアップ研修（基礎編）														
12月	家族ピアサポーターのスキルアップ研修（応用編）														
年2回程度	教育機関研修会に対して家族ピアが講師として参加														
<p>実施する上で連携が必要と思われる団体と期待される役割</p>	<table border="1" data-bbox="408 1196 1382 1433"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>期待される役割</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>（一社）岡山県精神保健福祉協会</td> <td>家族相談活動の理解と広報活動を支援する</td> </tr> <tr> <td>岡山県精神科病院協会</td> <td>入院中の家族に対する家族相談の紹介</td> </tr> <tr> <td>岡山県精神神経科診療所協会</td> <td>地域で生活する当事者家族への家族相談の紹介</td> </tr> <tr> <td>岡山県相談支援専門員協会</td> <td>地域で生活する当事者家族への家族相談の紹介</td> </tr> </tbody> </table>	名称	期待される役割	（一社）岡山県精神保健福祉協会	家族相談活動の理解と広報活動を支援する	岡山県精神科病院協会	入院中の家族に対する家族相談の紹介	岡山県精神神経科診療所協会	地域で生活する当事者家族への家族相談の紹介	岡山県相談支援専門員協会	地域で生活する当事者家族への家族相談の紹介				
名称	期待される役割														
（一社）岡山県精神保健福祉協会	家族相談活動の理解と広報活動を支援する														
岡山県精神科病院協会	入院中の家族に対する家族相談の紹介														
岡山県精神神経科診療所協会	地域で生活する当事者家族への家族相談の紹介														
岡山県相談支援専門員協会	地域で生活する当事者家族への家族相談の紹介														
<p>事業の展望及び今後の活動展開</p>	<p><input type="checkbox"/> NPOがネットワークを構築し、他団体と連携し実施することを目指す。 <input checked="" type="checkbox"/> 岡山市の一般施策としていくことを期待する。 <input type="checkbox"/> 次年度以後も協働での実施を希望。 <input type="checkbox"/> その他（ ）</p> <p>事業の展開 「家族学習会」に参加した家族のうち、家族ピアサポーター活動に関心のある家族に対して研修を行い、家族ピアサポーターを育成し、一定量の家族ピアサポーター活動ができる家族の確保を図る。</p> <p>今後の活動目標 岡山市内6か所に2～3人の配置を目指す。（市内6福祉区：北区中央、北区北、中区、東区、南区西、南区南） 支え合いのシステムを確立し、相談（電話・面接・訪問）活動を行う。 人権啓発・差別解消のために、教育機関やインフォーマルな支援者（家族・地域住民・ボランティア・民生委員等）に向けてピアサポーター活動を行う。</p>														

協働事業収支予算書

提案事業名	精神障がい者家族ピアサポーター事業
-------	-------------------

<収入>

費目		金額	内訳
自己資金等	申請団体 自己資金	180,000	
	合同提案団 体負担金等		
自己資金等合計(a)		180,000	
事業 収入 見込		0	
事業収入見込合計(b)		0	
岡山市補助金申請額(c)		720,000	
収入合計(d) = (a) + (b) + (c)		900,000	

<支出>

費目		金額	内訳
事業 実施 経費	人件費	192,000	家族電話相談@800円×5時間×48週
		240,000	面接相談@800円×5時間×10月×6人
		64,000	訪問活動@800円×2時間×20回×2人
		65,000	ピアサポーター研修会講師謝礼 (県内) @5,000円×5人×2回 (県外) @15,000円×1人×
		80,000	会議@800円×2時間×10月×5人
	法定福利費	5,060	人件費総額×0.003%
	旅費交通費	32,000	訪問活動@800円×20回×2人
		48,000	アドバイザー研修講師旅費 【県内】@800円×5人×2回 【県外】@40,000円×1人×1回
	使用料	30,000	会議室利用料 年2回
		10,000	備品利用料(プロジェクタ・マイク等)
	通信費	20,000	家族ほっとライン 月2000円×10月
		5,740	研修会案内@82円×70通
		8,200	家族ピアサポーターチラシ発送@82円×100通
		事務用品	
	30,000	チラシ印刷	
	印刷製本費	10,000	
事業実施経費合計(e)		840,000	
管 理 運 営 費	旅費交通費	40,000	
	会議費	20,000	
管理運営費合計(f)		60,000	
総事業費(g) = (e) + (f)		900,000	※収入合計(d)と同額